

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和元年9月25日（水）

2 確認箇所

- ・ 1 / 2号機共用排気筒（1 / 2号機開閉所前から確認）
- ・ 千島海溝津波対策防潮堤設置工事現場（3号機タービン建屋東側）

3 確認項目

- （1） 1 / 2号機共用排気筒解体工事の状況
- （2） 千島海溝津波対策防潮堤設置工事の状況

4 確認結果の概要

- （1） 1 / 2号機共用排気筒解体工事の状況について

1 / 2号機共用排気筒解体工事は9月18日から作業が再開されていることから、昨日に引き続き、作業の状況を確認した。

- ・ 現場確認時（11時頃及び11時50分頃）、解体装置が排気筒頂部に設置されていた。（写真1）
- ・ 東京電力によると、8時35分頃に解体装置の吊り上げを開始し、その後、11時37分頃から切断作業を開始し、16時30分頃までに筒身の約87%まで切断が完了したとのことであった。



（写真1）

筒身切断時の状況

（11時50分頃）

- （2） 千島海溝津波対策防潮堤設置工事の状況について

東京電力は、切迫性が高いとされている千島海溝地震^{*1}に伴う津波に対する自主的な安全対策として、T.P.^{*2}+8.5m盤の浸水を抑制し建屋流入に伴う滞留水の流出と増加を防ぐこと及びT.P.+8.5m盤に設置された建屋等の重要設備の津波被害を軽減することにより発電所全体の廃炉作業が遅延するリスクを緩和することを目的に、2020年度上期完成予定で、高さT.P.+11m、全長約600mの防潮堤を1号機タービン建屋～4号機タービン建屋東側に設置することとしている。

防潮堤はL型擁壁を据え付ける計画であり、9月23日から初回の据付作業が開始されたことから、作業の進捗状況を確認した、

- ※1 千島海溝地震：国の地震調査研究推進本部が2017年12月に、北海道太平洋側の千島海溝でマグニチュード8.8程度以上の地震が今後30年以内に7～40%の確率で発生するとの長期評価を公表している。
- ※2 T. P.：東京湾平均海面（Tokyo Peil）のことで、日本における標高の基準面となっている。
- ・3号機タービン建屋東側の海側法肩部に構築されたコンクリート基礎の上に、L型擁壁が27基据え付けられていた。（写真2）
- ・東京電力によると、L型擁壁の仕様は、高さ：1.7m、幅：1.6m、奥行き：2.0m、壁厚：0.2m、底版厚：0.35m、重量：約4.0tで、初回の据付範囲は約80mとのことである。



（写真2）
L型擁壁据え付けの状況
（3号機タービン建屋東側において
南側から撮影）

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。